

最近の家計消費の特徴（二人以上の世帯）

2014年4月に、消費税率が5%から8%へ引き上げられた。これにより、消費支出は、引上げ前の3月には駆け込み需要による増加、引上げ後の4月以降はその反動による減少がみられた。本章では、消費税率引上げに伴う消費支出の動きについて、家計調査の結果から見てみる。

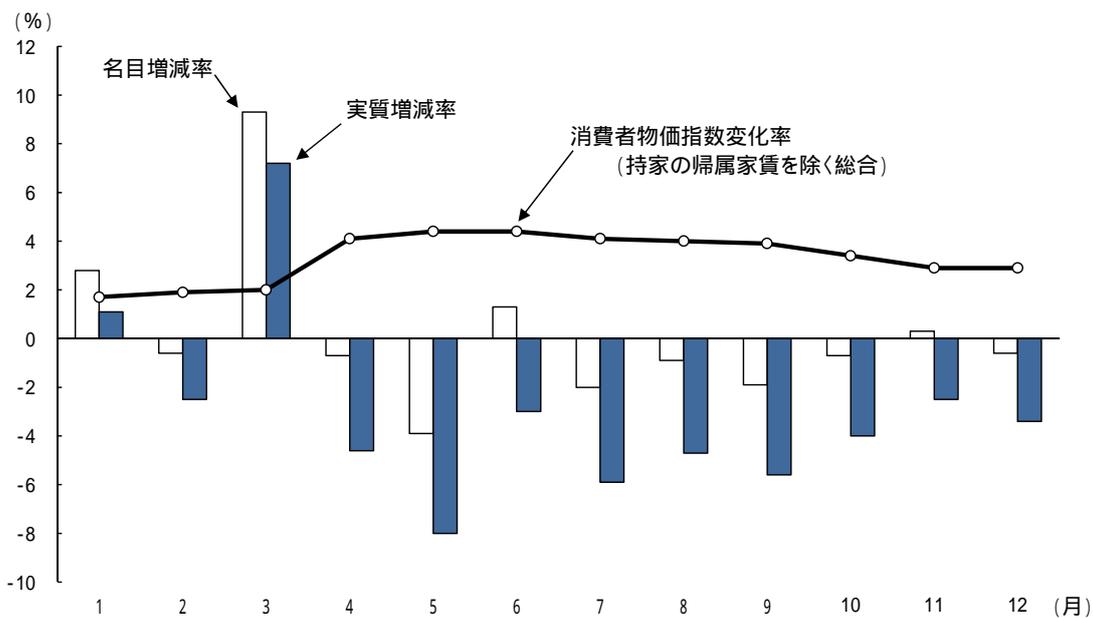
また、消費税率引上げ後の消費支出の回復が遅れている要因の一つと考えられる、夏場の天候不順による影響についても見てみる。

1 消費税率引上げに伴う消費支出の動き

(1) 消費支出の動き

2014年3月の消費支出は、駆け込み需要により、前年同月に比べ実質7.2%の増加と大きな増加となった。4月はその反動もあって前年同月に比べ実質4.6%の減少、5月は実質8.0%の減少と大きな減少となった。その後も夏場の天候不順などもあり減少傾向となっている。なお、4月に比べて5月の減少幅が大きくなっているのは、住宅の設備修繕・維持などで一部の支払いが4月にずれ込んだことが影響したとみられる（図 - 1 - 1）。

図 - 1 - 1 消費支出の対前年同月増減率の推移（二人以上の世帯） - 2014年 -



	2014年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
支出金額名目増減率 (%)	2.8	-0.6	9.3	-0.7	-3.9	1.3	-2.0	-0.9	-1.9	-0.7	0.3	-0.6
支出金額実質増減率 (%)	1.1	-2.5	7.2	-4.6	-8.0	-3.0	-5.9	-4.7	-5.6	-4.0	-2.5	-3.4
消費者物価指数変化率 (%)	1.7	1.9	2.0	4.1	4.4	4.4	4.1	4.0	3.9	3.4	2.9	2.9

(2) 財・サービス区分別の動き

財・サービス区別に消費支出をみると、2014年3月の財（商品）は前年同月に比べ実質16.3%の増加となった。一方、サービスは前年同月に比べ実質1.8%の増加と、財ほど大きな変動はなかった。

さらに、財のうち耐久財と非耐久財（消耗品）についてみると、2014年3月の耐久財は、駆け込み需要でエアコンディショナや電気冷蔵庫などの家電製品が大幅に増加したことから、前年同月に比べ実質57.9%の増加となり、消費支出の増加に大きく寄与した。一方、非耐久財は、しょう油などの油脂・調味料やトイレットペーパーなどの家事用消耗品を中心に増加したことから、前年同月に比べ実質6.9%の増加となった（図 - 1 - 2，図 - 1 - 3）。

図 - 1 - 2 財（商品）及びサービスの月別支出金額の
対前年同月増減率の推移（二人以上の世帯） - 2014年 -

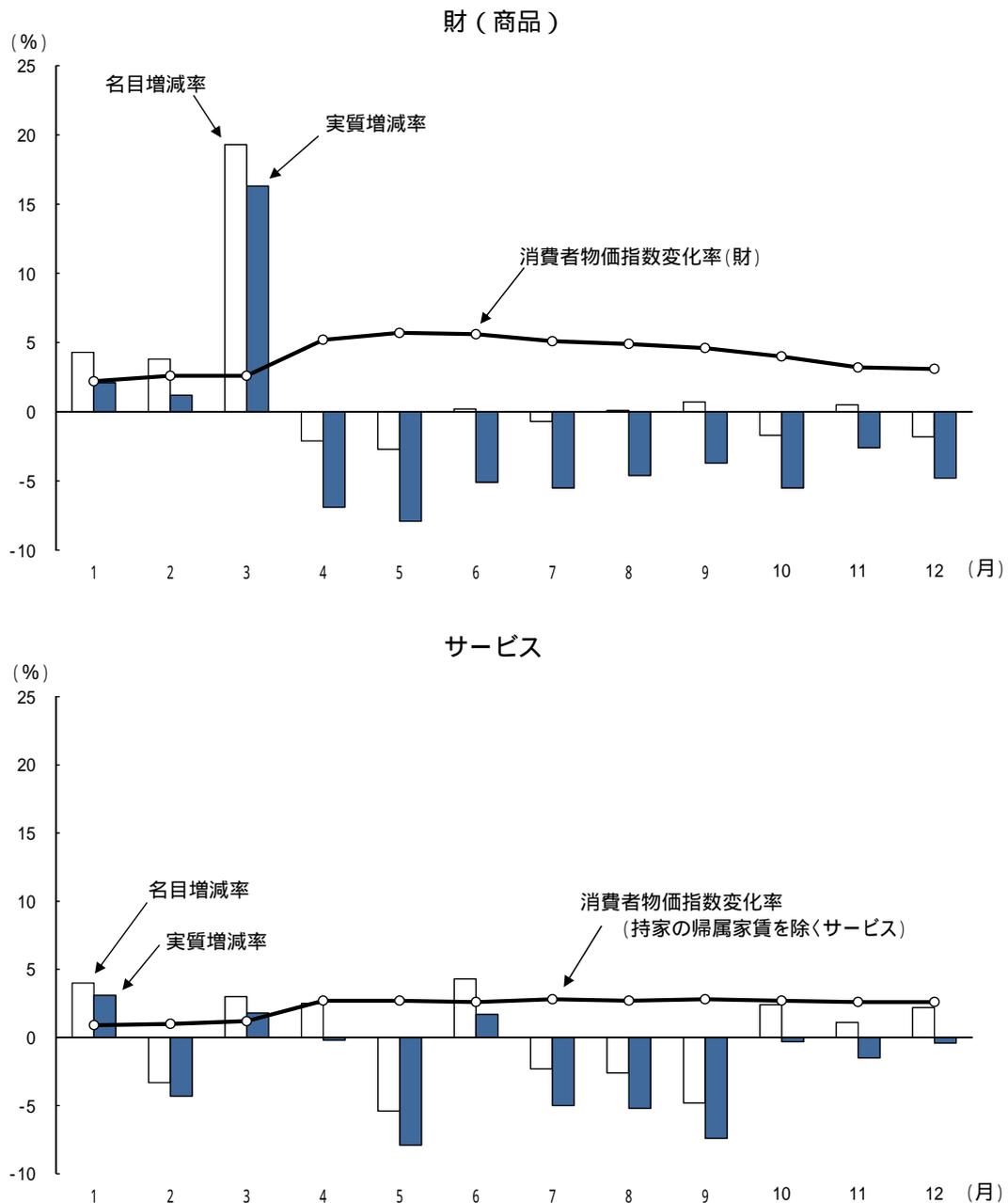
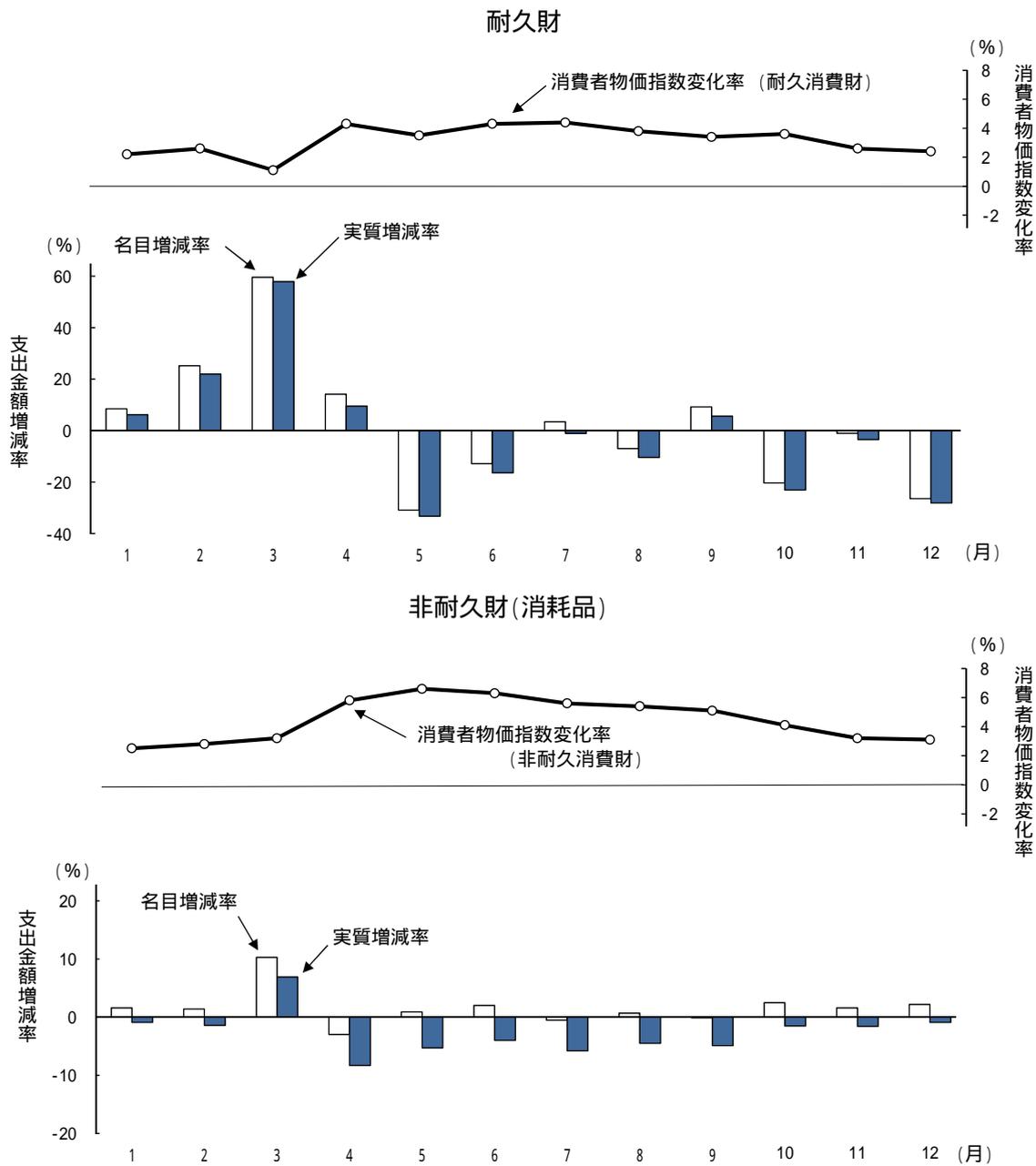


図 - 1 - 3 耐久財及び非耐久財（消耗品）の月別支出金額の
対前年同月増減率の推移（二人以上の世帯） - 2014年 -



		2014年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
名目 支出金額 増減率	財(商品)	4.3	3.8	19.3	-2.1	-2.7	0.2	-0.7	0.1	0.7	-1.7	0.5	-1.8
	耐久財	8.5	25.2	59.6	14.2	-30.9	-12.8	3.4	-7.0	9.2	-20.3	-1.0	-26.4
	半耐久財	13.7	0.1	22.8	-9.1	-2.5	1.3	-4.8	2.2	-1.9	-3.5	-3.1	-0.7
	非耐久財	1.6	1.4	10.3	-3.0	0.9	2.0	-0.5	0.7	-0.1	2.5	1.6	2.2
	サービス	4.0	-3.3	3.0	2.5	-5.4	4.3	-2.3	-2.6	-4.8	2.4	1.1	2.2
実質 支出金額 増減率	財(商品)	2.1	1.2	16.3	-6.9	-7.9	-5.1	-5.5	-4.6	-3.7	-5.5	-2.6	-4.8
	耐久財	6.2	22.0	57.9	9.5	-33.2	-16.4	-1.0	-10.4	5.6	-23.1	-3.5	-28.1
	半耐久財	12.7	-1.2	22.1	-11.8	-5.3	-1.6	-7.4	-0.9	-4.9	-6.9	-6.6	-4.0
	非耐久財	-0.9	-1.4	6.9	-8.3	-5.3	-4.0	-5.8	-4.5	-4.9	-1.5	-1.6	-0.9
	サービス	3.1	-4.3	1.8	-0.2	-7.9	1.7	-5.0	-5.2	-7.4	-0.3	-1.5	-0.4
消費 者物 価 変 化 率	財(商品)	2.2	2.6	2.6	5.2	5.7	5.6	5.1	4.9	4.6	4.0	3.2	3.1
	耐久財	2.2	2.6	1.1	4.3	3.5	4.3	4.4	3.8	3.4	3.6	2.6	2.4
	半耐久財	0.9	1.3	0.6	3.1	3.0	2.9	2.8	3.1	3.2	3.7	3.7	3.4
	非耐久財	2.5	2.8	3.2	5.8	6.6	6.3	5.6	5.4	5.1	4.1	3.2	3.1
	サービス	0.9	1.0	1.2	2.7	2.7	2.6	2.8	2.7	2.8	2.7	2.6	2.6

(3) 品目別にみた動き

消費支出のうち、消費税率引上げによる駆け込み需要及びその反動がみられた主な品目等は以下のとおりである。また、そのうち代表的な品目の四半期別の推移について見てみる(表 - 1 - 1, 表 - 1 - 2, 図 - 1 - 4 ~ 9)。

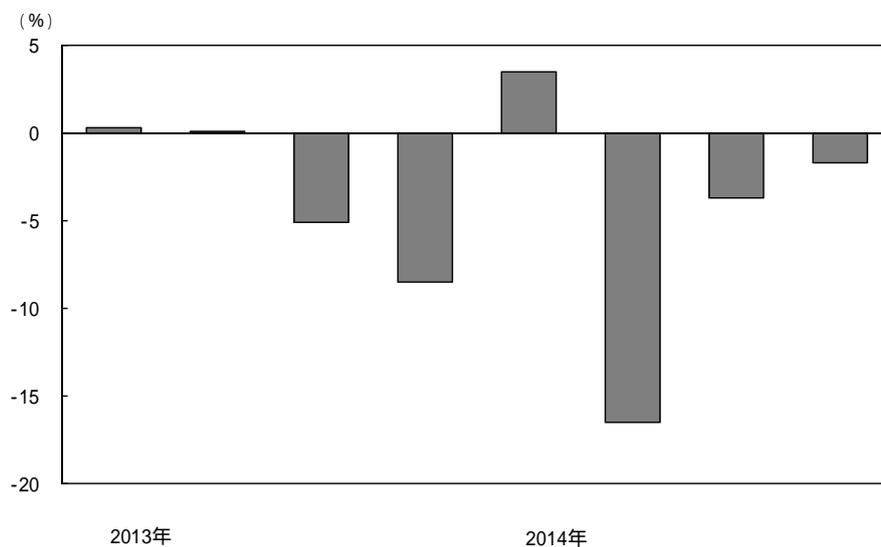
表 - 1 - 1 消費税率引上げによる駆け込み需要及びその反動がみられた主な品目等
(二人以上の世帯)

支出金額実質増減率(%)	2014年											
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
食料												
穀類	9.1	-13.9	-6.3	-6.2	-2.5	3.3	0.6	-0.4	1.7	3.7		
米	18.5	-25.7	-12.7	-10.9	-8.0	-2.0	-1.7	-4.4	-0.2	0.3		
カップめん	10.2	-11.8	-6.4	-1.7	5.0	5.9	-4.2	1.4	6.5	11.2		
油脂・調味料	23.5	-18.3	-8.6	-5.6	-3.9	0.2	-0.4	1.3	2.9	0.2		
食用油	38.3	-28.7	-6.4	2.8	7.0	9.2	-1.4	7.6	25.1	14.0		
調味料	22.9	-17.2	-8.3	-6.1	-4.5	-0.5	-0.3	1.1	2.1	-0.8		
酒類	25.5	-20.6	-1.5	-4.4	0.5	-0.3	-4.2	-5.6	-0.2	-2.7		
ビール	16.7	-17.1	-8.0	-4.4	-1.0	-3.5	-4.6	-8.6	-1.5	-6.1		
発泡酒・ビール風アルコール飲料	35.3	-22.0	-4.1	-5.1	-9.5	-10.1	-8.3	-8.4	-5.5	-3.2		
住居												
設備修繕・維持	24.7	23.0	-44.4	19.8	-4.1	-37.8	-26.7	-22.7	-34.8	15.7		
家具・家事用品												
家庭用耐久財	162.2	-21.8	-27.6	-20.1	-27.2	-15.4	-21.8	-37.8	-6.8	-6.9		
電気冷蔵庫	361.7	-3.8	-20.9	-41.4	21.3	31.8	11.6	-67.5	3.6	-59.5		
電気洗濯機	176.8	-26.2	-42.3	-62.3	-3.9	46.6	-36.0	-4.9	22.4	32.1		
エアコンディショナ	401.0	-4.1	20.3	-17.0	-41.4	-48.6	-63.2	-79.2	49.3	5.0		
家事用消耗品	53.8	-22.0	-8.9	-4.9	-1.3	-0.4	-1.4	-2.0	-2.2	3.1		
ポリ袋・ラップ	61.7	-18.9	-8.6	-5.5	-2.3	0.5	-2.6	-2.0	1.1	3.1		
トイレトペーパー	59.4	-32.4	-7.8	-7.6	-3.9	-3.1	-2.3	1.1	2.2	-0.6		
台所・住居用洗剤	58.4	-29.5	-17.0	-12.3	-4.7	-9.9	-2.7	-2.6	-5.4	3.3		
洗濯用洗剤	69.8	-29.3	-17.3	-3.7	25.8	5.6	-5.5	-1.2	0.9	4.1		
被服及び履物												
下着類	35.6	-4.5	-5.4	0.2	-7.9	-5.0	-4.9	-4.4	-10.4	8.3		
保健医療												
保健医療用品・器具	65.8	-23.6	-8.8	-12.2	-5.6	10.2	-16.3	6.7	12.9	-7.5		
紙おむつ	37.5	-37.8	-12.9	0.6	-0.2	9.5	0.6	1.8	1.6	7.0		
コンタクトレンズ	96.9	-12.0	-29.3	-24.4	-20.7	-7.7	4.1	1.9	18.1	5.8		
交通・通信												
交通	18.6	-24.7	-4.7	-8.4	-21.8	-6.8	-2.9	-7.6	-10.9	-18.6		
鉄道通学定期代	298.9	-43.1	-35.2	-73.7	-26.6	-19.3	-6.5	-17.3	-9.7	15.0		
鉄道通勤定期代	25.4	-42.6	-7.3	40.7	-47.5	11.4	3.2	-18.9	-18.5	-21.3		
教養娯楽												
教養娯楽用品	7.0	-17.0	0.5	-12.1	-7.0	-2.3	-4.7	-0.3	-7.6	-4.1		
ペットフード	23.8	-40.6	-25.3	-25.7	-16.1	-7.2	-9.2	-2.9	4.1	-10.9		
その他の消費支出												
理美容用品	51.9	-24.0	-19.6	-6.5	-10.3	-8.2	-3.3	-4.6	0.6	5.0		
シャンプー	72.1	-34.9	-11.0	0.5	-9.1	0.2	-2.8	1.8	-4.6	14.2		
歯磨き	47.0	-28.4	-14.1	3.1	8.8	5.1	5.0	1.8	9.6	3.1		

ア 米

米の支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年1～3月期は駆け込み需要により、前年同期に比べ実質3.5%の増加となり、2013年4～6月期以来3期ぶりの実質増加となった。2014年4～6月期は反動により、前年同期に比べ実質16.5%の減少となった（図 - 1 - 4，表 - 1 - 2）。

図 - 1 - 4 米の四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移（二人以上の世帯）

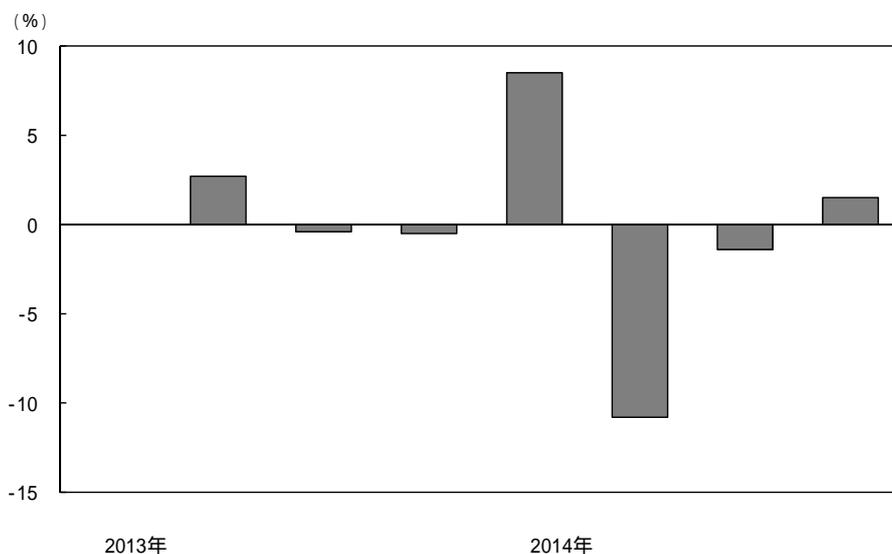


（注） は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。

イ 油脂・調味料

油脂・調味料の支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年1～3月期は駆け込み需要により、前年同期に比べ実質8.5%の増加となり、2013年4～6月期以来3期ぶりの実質増加となった。2014年4～6月期は反動により、前年同期に比べ実質10.8%の減少となった（図 - 1 - 5，表 - 1 - 2）。

図 - 1 - 5 油脂・調味料の四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移（二人以上の世帯）

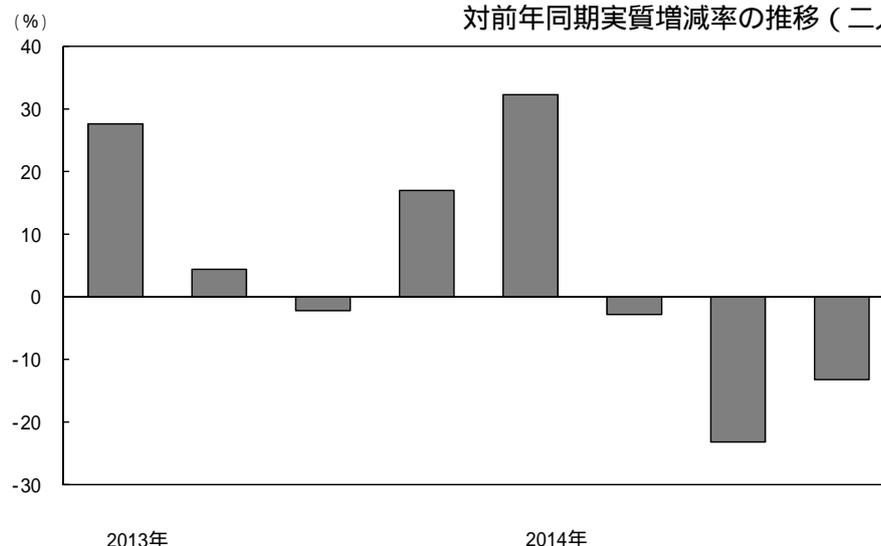


（注） は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。

ウ 設備修繕・維持

設備修繕・維持の支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2013年10～12月期は前年同期に比べ実質17.0%の増加と、住宅リフォームなどは納期の関係で早くから駆け込み需要の影響がみられた。2014年1～3月期は前年同期に比べ実質32.3%の増加となり、2013年10～12月以降2期連続の実質増加となった。その後は反動減が続いている（図 - 1 - 6，表 - 1 - 2）。

図 - 1 - 6 設備修繕・維持の四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移（二人以上の世帯）

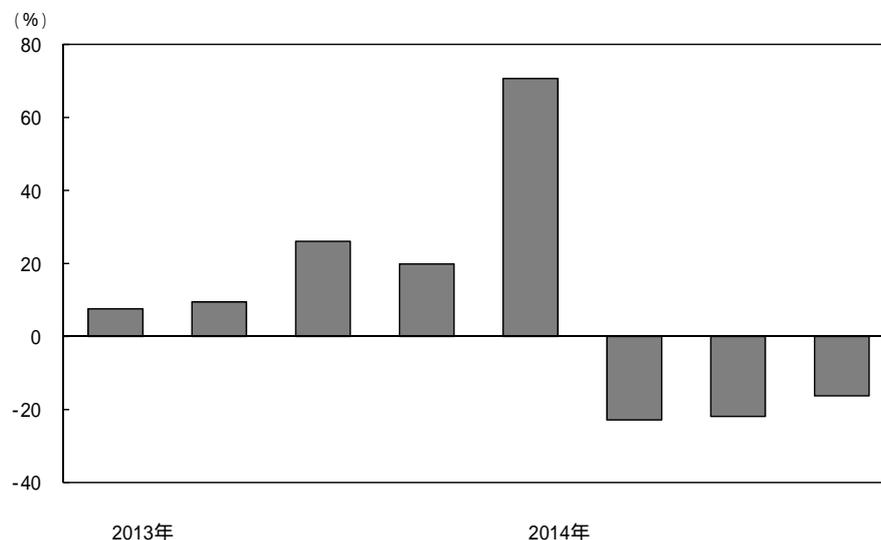


（注） は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。

エ 家庭用耐久財

家庭用耐久財の支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年1～3月期は駆け込み需要により、前年同期に比べ実質70.7%の増加となり、4～6月期は反動により、前年同期に比べ実質22.8%の減少となった。7～9月期は前年の夏が猛暑でエアコンディショナなどが大きく増加したことや、反動減が続いたこともあって、前年同期に比べ実質21.9%の減少となった（図 - 1 - 7，表 - 1 - 2）。

図 - 1 - 7 家庭用耐久財の四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移（二人以上の世帯）

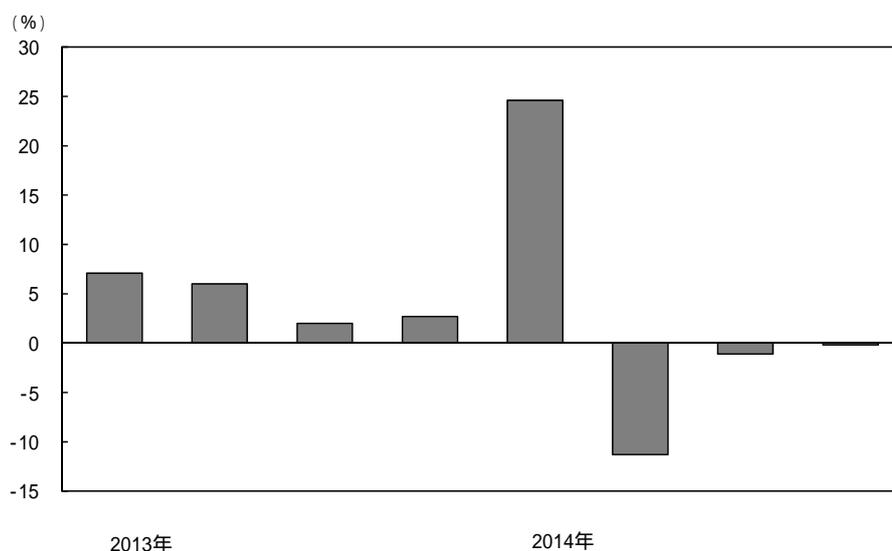


（注） は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。

オ 家事用消耗品

家事用消耗品の支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年1～3月期は駆け込み需要により、前年同期に比べ実質24.6%の増加となった。4～6月期は反動により、前年同期に比べ実質11.3%の減少となり、2012年1～3月期以来9期ぶりの実質減少となった。その後3期連続の実質減少となったが、減少幅は縮小している(図 - 1 - 8 表 - 1 - 2)。

図 - 1 - 8 家事用消耗品の四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移(二人以上の世帯)

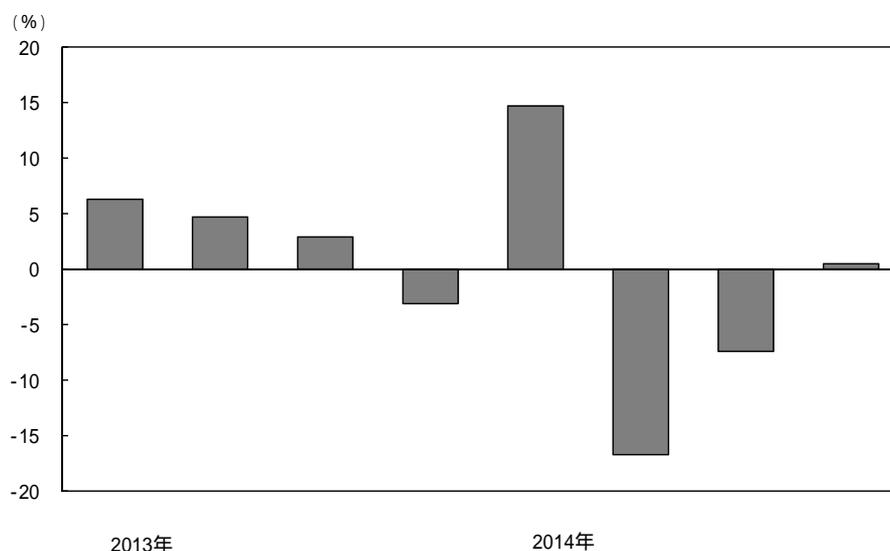


(注) は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。

カ 理美容用品

理美容用品の支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年1～3月期は駆け込み需要により、前年同期に比べ実質14.7%の増加となった。4～6月期は反動により、前年同期に比べ実質16.7%の減少となった(図 - 1 - 9, 表 - 1 - 2)。

図 - 1 - 9 理美容用品の四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移(二人以上の世帯)



(注) は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。

表 - 1 - 2 四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移（二人以上の世帯）

(%)

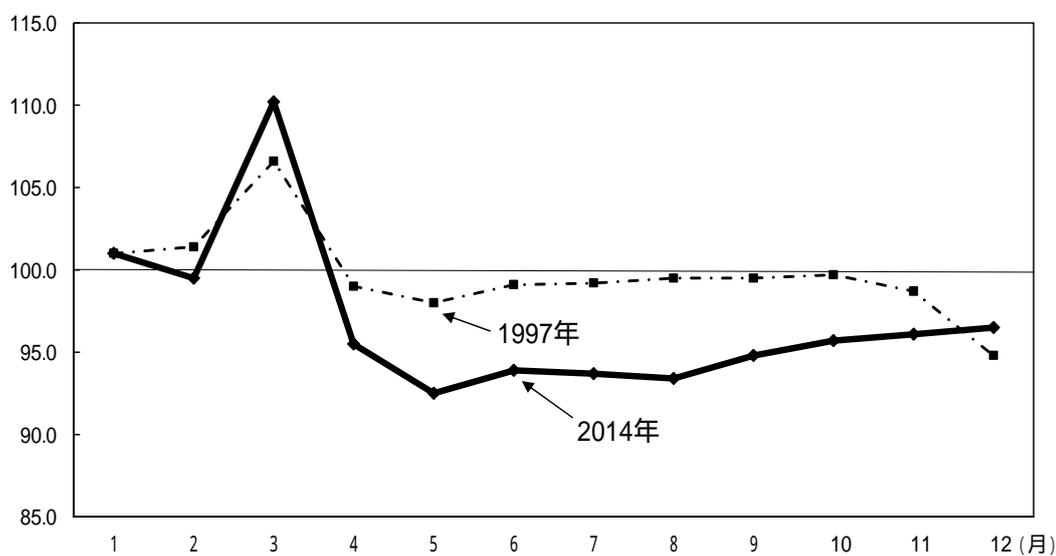
	2013年				2014年			
	1	2	3	4	1	2	3	4
米	0.3	0.1	-5.1	-8.5	3.5	-16.5	-3.7	-1.7
油脂・調味料	0.0	2.7	-0.4	-0.5	8.5	-10.8	-1.4	1.5
設備修繕・維持	27.6	4.4	-2.2	17.0	32.3	-2.8	-23.2	-13.2
家庭用耐久財	7.6	9.5	26.1	19.9	70.7	-22.8	-21.9	-16.2
家事用消耗品	7.1	6.0	2.0	2.7	24.6	-11.3	-1.1	-0.2
理美容用品	6.3	4.7	2.9	-3.1	14.7	-16.7	-7.4	0.5

(注) は1～3月期, は4～6月期, は7～9月期, は10～12月期を表す。

<参考> 前回消費税率引上げ時(1997年)との比較

二人以上の世帯の消費支出について、季節調整済みの実質指数により、前回の消費税率引上げ時(1997年4月:3% 5%)と比較してみると、3月の駆け込み需要は今回(2014年4月:5% 8%)の方が前回より大きな増加となっており、その反動もあって4月以降は今回の方が前回より大きな減少となったが、9月以降緩やかな増加となっている。

図 消費支出(季節調整済実質指数)の推移(二人以上の世帯)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1997年	101.0 (1.5)	101.4 (0.4)	106.6 (5.1)	99.0 (-7.1)	98.0 (-1.0)	99.1 (1.1)	99.2 (0.1)	99.5 (0.3)	99.5 (0.0)	99.7 (0.2)	98.7 (-1.0)	94.8 (-4.0)
2014年	101.0 (1.6)	99.5 (-1.5)	110.2 (10.8)	95.5 (-13.3)	92.5 (-3.1)	93.9 (1.5)	93.7 (-0.2)	93.4 (-0.3)	94.8 (1.5)	95.7 (0.9)	96.1 (0.4)	96.5 (0.4)

(注) 1 各年の前年平均を100として指数化した。

なお、2014年は農林漁家世帯を含む結果、1997年は農林漁家世帯を除く結果である。

季節調整の方法は、2014年はセンサス局法X-12-ARIMA、1997年はセンサス局法X-11を用いた。

2 表中の()内の数値は対前月変化率(%)である。

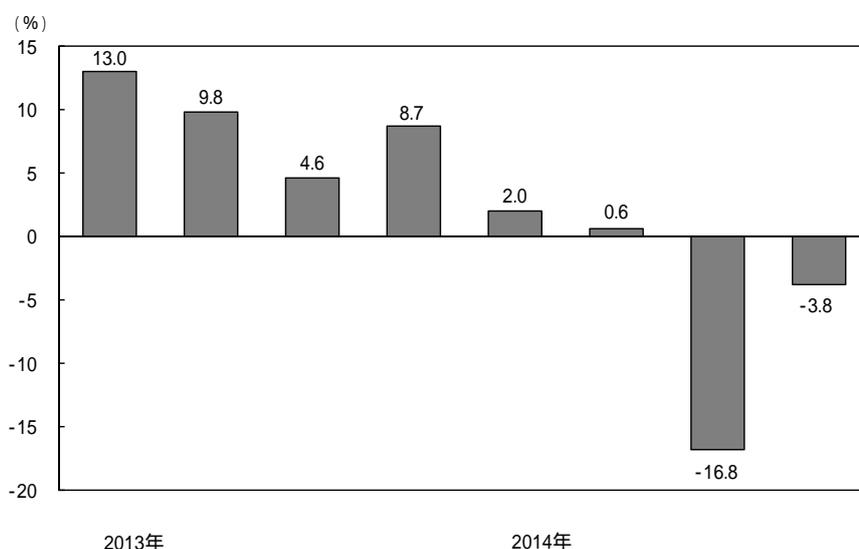
2 夏場の天候不順による影響を受けたとみられる主な品目

2014年7～9月期は、前年に比べ全国的に気温が低かった影響を受け、食料関係の一部の品目で支出金額の減少がみられた。また、大雨などの天候不順により、外食や国内パック旅行費などのレジャー関係の支出金額にも減少がみられた。

(1) アイスクリーム・シャーベット

アイスクリーム・シャーベットの支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年7～9月期は前年同期に比べ実質16.8%の減少となり、2012年10～12月期以来7期ぶりの実質減少となった(図 - 2 - 1)。

図 - 2 - 1 アイスクリーム・シャーベットの四半期別支出金額の
対前年同期実質増減率の推移(二人以上の世帯)

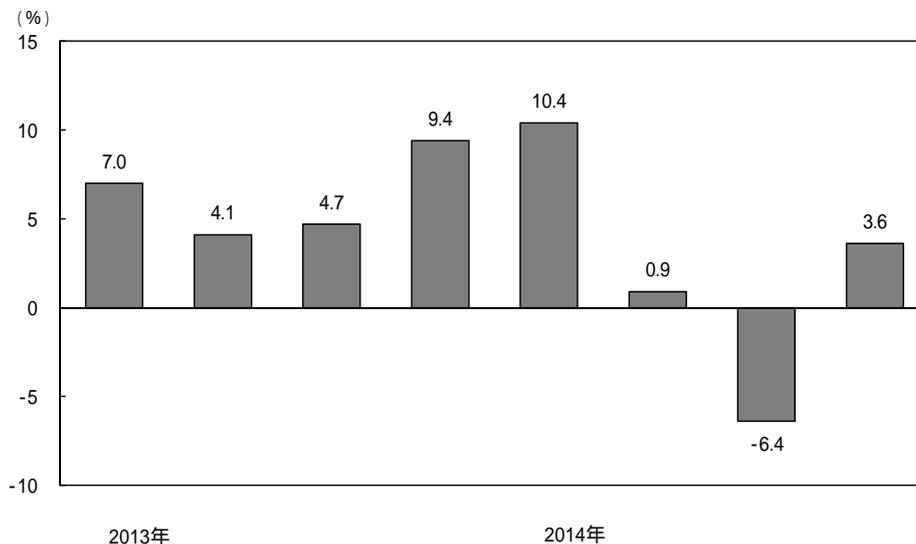


- (注) 1 は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。
2 アイスクリーム・シャーベットの増減率の実質化には、消費者物価指数(アイスクリーム)を用いた。

(2) 茶飲料

茶飲料の支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年7～9月期は前年同期に比べ実質6.4%の減少となり、2012年10～12月期以来7期ぶりの実質減少となった(図 - 2 - 2)。

図 - 2 - 2 茶飲料の四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移(二人以上の世帯)

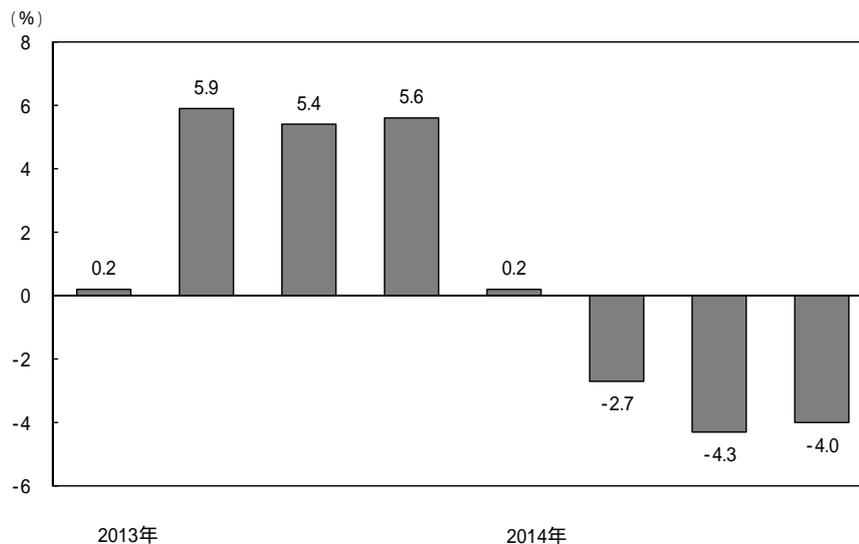


(注) 1 は1～3月期、 は4～6月期、 は7～9月期、 は10～12月期を表す。
2 茶飲料の増減率の実質化には、消費者物価指数(茶飲料)を用いた。

(3) 外食

外食の支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年7～9月期は天候不順の影響に加え、7月下旬に発覚した中国の期限切れ鶏肉問題の影響もあって、前年同期に比べ実質4.3%の減少となった。10～12月期は前年同期に比べ実質4.0%の減少となり、4～6月期以降3期連続の実質減少となった(図 - 2 - 3)。

図 - 2 - 3 外食の四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移(二人以上の世帯)

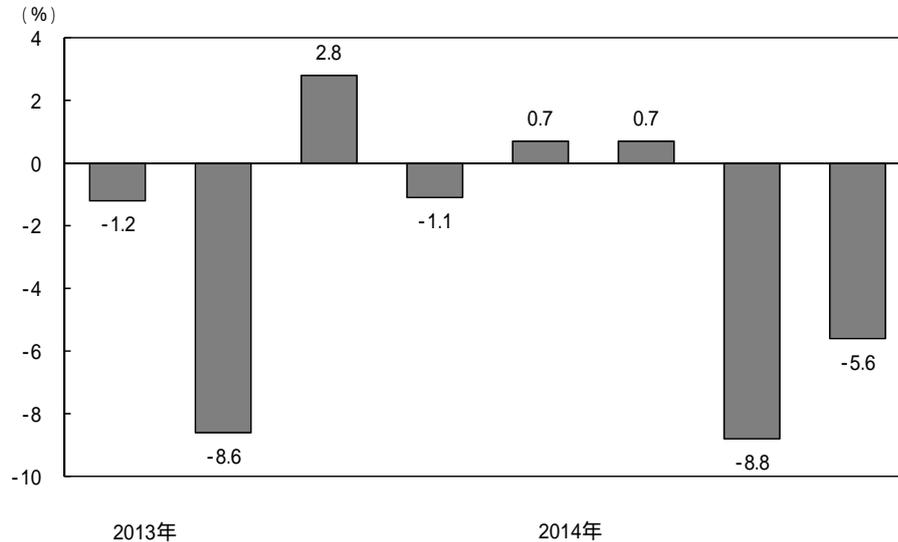


(注) 1 は1～3月期、 は4～6月期、 は7～9月期、 は10～12月期を表す。
2 外食の増減率の実質化には、消費者物価指数(外食)を用いた。

(4) 電気代

電気代の支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年7～9月期は、前年に比べて全国的に気温が低く、エアコンなどの冷房利用が控えられたこともあって、前年同期に比べ実質8.8%の減少となった(図 - 2 - 4)。

図 - 2 - 4 電気代の四半期別支出金額の対前年同期実質増減率の推移(二人以上の世帯)

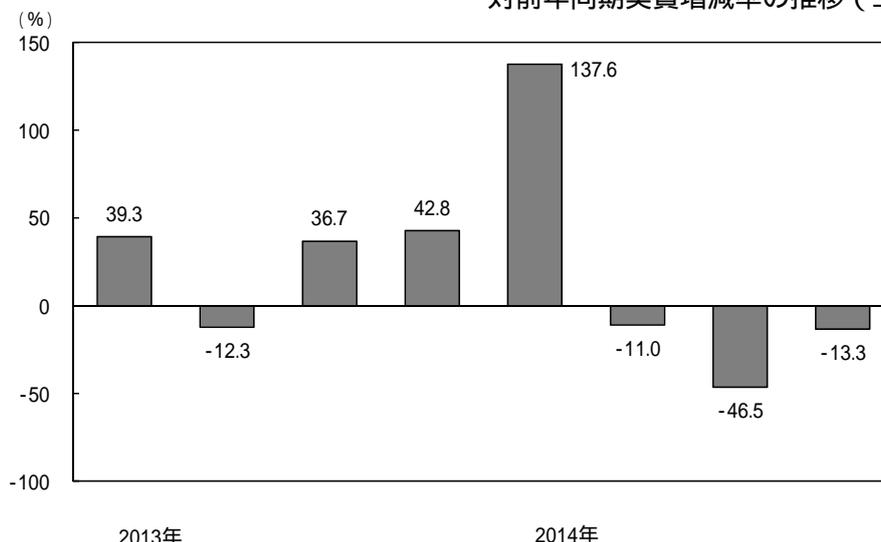


- (注) 1 は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。
2 電気代の増減率の実質化には、消費者物価指数(電気代)を用いた。
3 家計調査では、電気代等の支払金額については、請求やメーターの検針があった日ではなく、調査世帯が実際に支払った日(口座振替の場合は口座振替日)に家計簿に記入される。したがって、利用月と支払月に違いがあるため、結果をみる際は注意が必要である。

(5) エアコンディショナ

エアコンディショナの支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年7～9月期は、前年の夏が猛暑で大きく増加したことや、消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動減が続いたこともあって、前年同期に比べ実質46.5%の減少となった（図 - 2 - 5）。

図 - 2 - 5 エアコンディショナの四半期別支出金額の
対前年同期実質増減率の推移（二人以上の世帯）

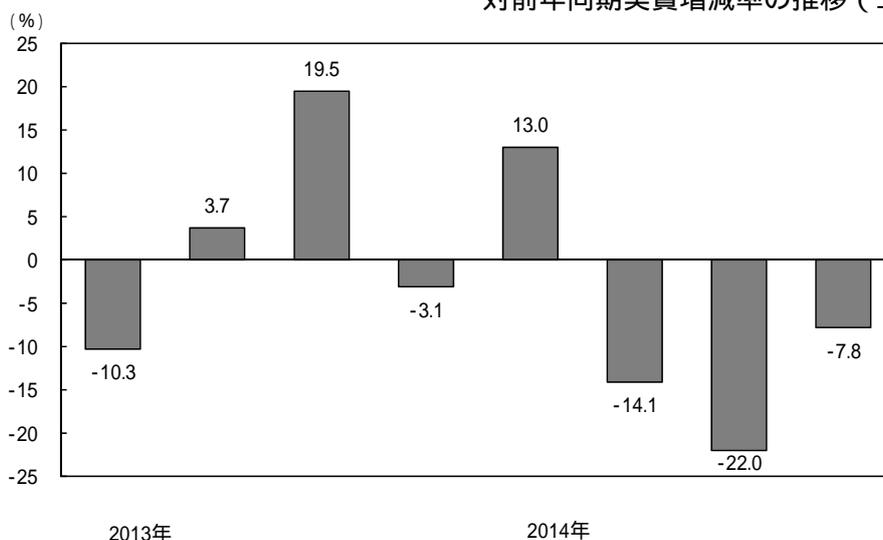


(注) 1 は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。
2 エアコンディショナの増減率の実質化には、消費者物価指数（ルームエアコン）を用いた。

(6) 国内パック旅行費

国内パック旅行費の支出金額の実質増減率を四半期別にみると、2014年7～9月期は前年同期に比べ実質22.0%の減少となった。10～12月期は前年同期に比べ実質7.8%の減少となり、4～6月期以降3期連続の実質減少となったが、減少幅は前期に比べ縮小した（図 - 2 - 6）。

図 - 2 - 6 国内パック旅行費の四半期別支出金額の
対前年同期実質増減率の推移（二人以上の世帯）



(注) 1 は1～3月期， は4～6月期， は7～9月期， は10～12月期を表す。
2 国内パック旅行費の増減率の実質化には、消費者物価指数（宿泊料、ガソリン、入場・ゲーム代などの加重平均）を用いた。

<参考> 日別集計でみた駆け込み需要の状況

駆け込み需要が大きく現れた、米、酒類及びトイレットペーパーについて、日別の支出金額の動きを見てみると、3月の月末にかけて支出金額が増加し、4月に入ると急激に減少している。

図1 米の日別支出金額の推移

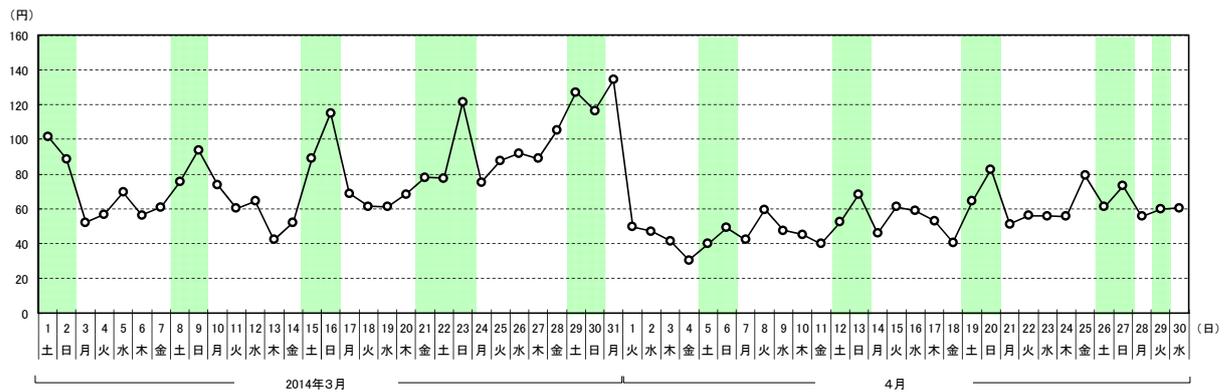


図2 酒類の日別支出金額の推移

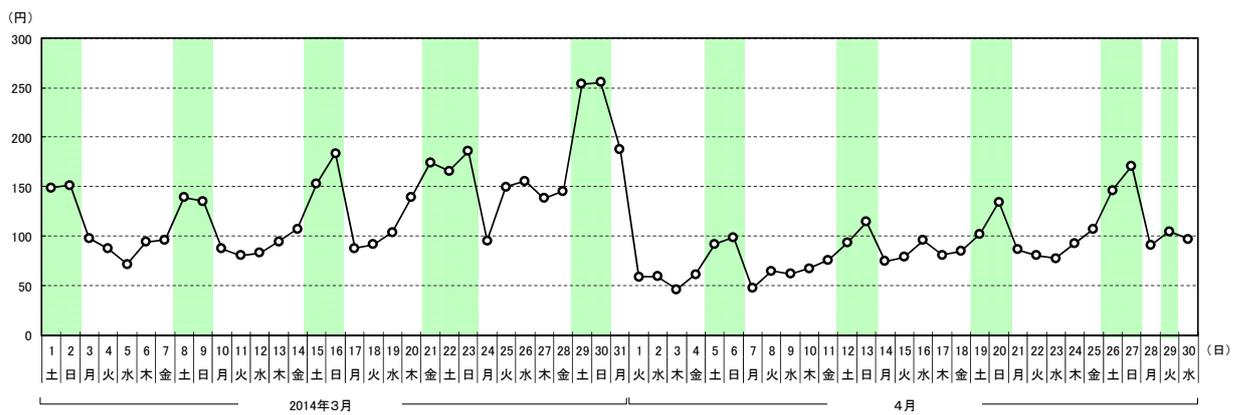
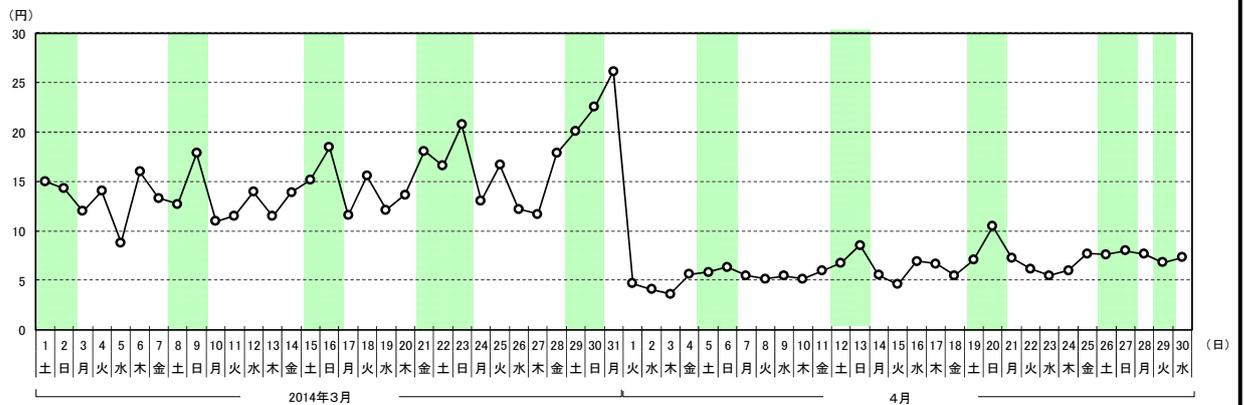


図3 トイレットペーパーの日別支出金額の推移

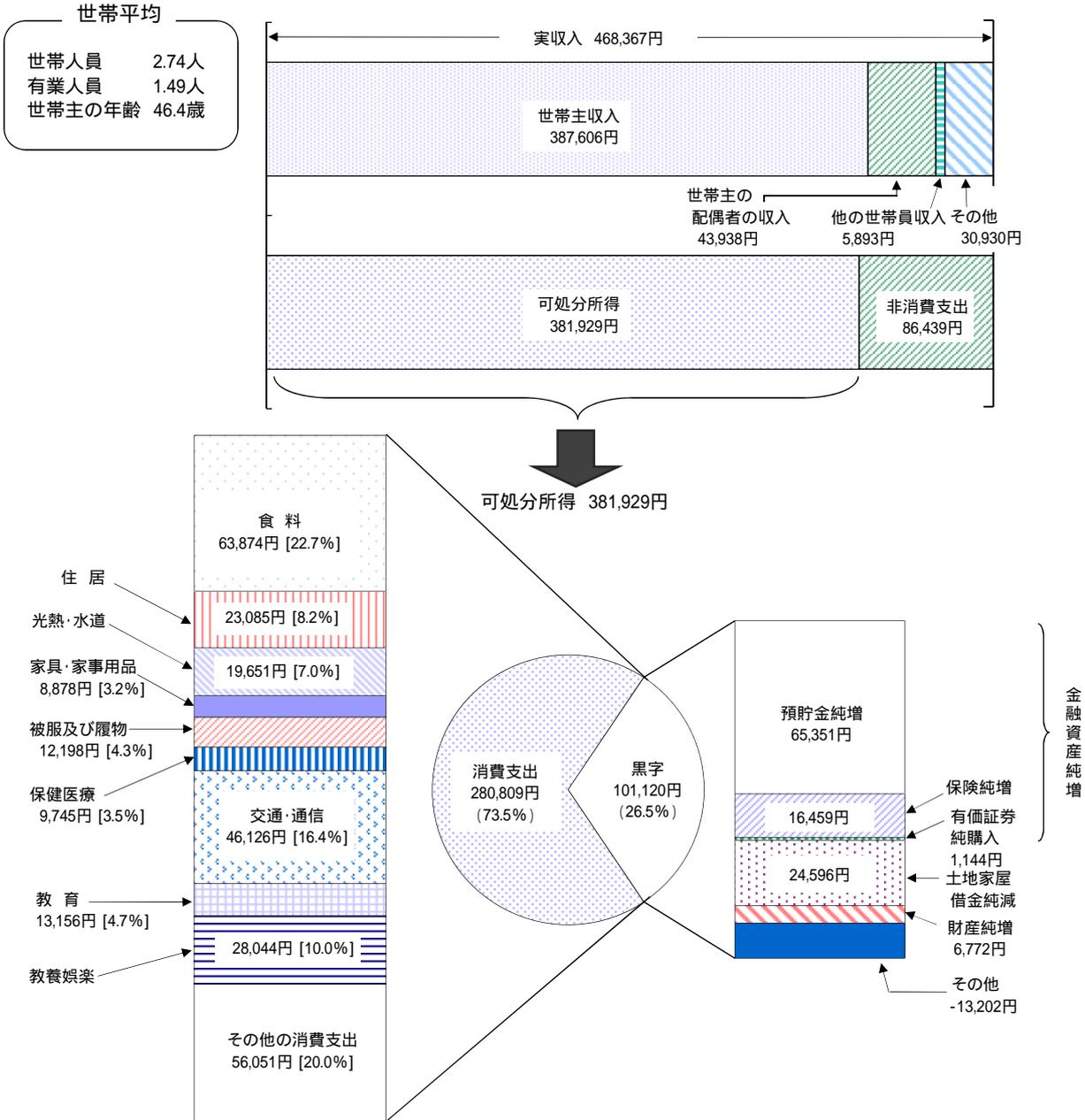


(注) 網掛け部分は土日祝日を示す。消費支出は土日祝日に増加する傾向がある。

< 参考 > 2014年の家計収支の状況

1世帯当たり1か月平均の消費支出は28万1千円

図 家計収支の状況（総世帯のうち勤労者世帯） - 2014年 -



- (注) 1 実収入のうちその他とは、実収入から世帯主収入、世帯主の配偶者の収入及び他の世帯員収入を除いたものである。例えば、事業・内職収入などがある。
- 2 黒字とは、可処分所得から消費支出を差し引いた額である。
- 3 消費支出の()内は平均消費性向(可処分所得に対する消費支出の割合)を、黒字の()内は黒字率(可処分所得に対する黒字の割合)を示している。
- 4 食料から「その他の消費支出」の[]内は消費支出の内訳である。
- 5 金融資産純増とは、預貯金純増、保険純増及び有価証券純購入を合わせたものである。
- 6 預貯金純増とは、銀行などの金融機関への預貯金の預入額から引出額を差し引いた額である。
- 7 保険純増とは、貯蓄的要素のある保険料から保険金を差し引いた額である。
- 8 有価証券純購入とは、株式、債券などの有価証券の購入額(有価証券購入)から売却額(有価証券売却)を差し引いた額である。
- 9 土地家屋借金純減とは、土地や住宅などの購入に係る借入金返済額(土地家屋借金返済)から借入額(土地家屋借入金)を差し引いた額である。
- 10 財産純増とは、土地、家屋など不動産の購入額(財産購入)から売却額(財産売却)を差し引いた額である。
- 11 黒字の中のその他とは、黒字から金融資産純増、土地家屋借金純減及び財産純増を除いたものである。例えば、分割払購入借入金純減、一括払購入借入金純減などがある。計数のマイナス符号はこれら借入金の純増を示す。